

やわらかい手

2007(平成19)年12月3日鑑賞(東映試写室)

★★★★



監督=サム・ガルバルスキ/出演=マリアンヌ・フェイスフル/ミキ・マノイロヴィッチ/
ケヴィン・ビショップ/シボーン・ヒューレット/ドルカ・グリルシュ/ジェニー・アガター
(クレストインターナショナル配給/2006年イギリス、フランス、ベルギー、ドイツ、ル
クセンブルグ映画/103分)

……孫の手術費用を工面するために、「伝説のミューズ」が就いた接客業とは……？ 何とも意味シなタイトルだが、もちろんエロい物語ではなく、人間の絆や温かさをジワジワと伝えてくれる感動作！「自分を省みて……」を人間の行動の指針としなければ……。

何とも意味シなタイトルに注目！

この映画のタイトル『やわらかい手』は一見普通の言葉だが、その意味を深く考えていくと何とも意味シな……？ とりわけ、エッチ方面、風俗方面にその意味を広げていくと……？

この映画の重要舞台の1つは、ミキ（ミキ・マノイロヴィッチ）が経営するセックスショップ「セクシー・ワールド」。そこで「イリーナ・パーム（手のひらイリーナ）」という源氏名をもらって働いているのが主人公の中年おばさんマギー（マリアンヌ・フェイスフル）だが、そんな店でマギーはどんな仕事を……？

もちろん、そんな店でも給仕や食器洗いなどの雑用係は常に必要だが、ミキがマギーを週600～800ポンドという高給で雇ったのは、中年おばさんながらそのなめらかな手に注目したため。さて、マギーはそのなめらかな手で一体どんな「接客」業を……？

主役のおばさんは、あの……？

私は全然知らなかったが、「ゴッド・ハンド」の持ち主マギーを演ずる1946年生ま

れのマリアヌ・フェイスフルは、1960年代のロンドン・ポップアイコンの花形で、あのミック・ジャガーらと共に活動していた（恋人？）シンガーとのこと。また俳優としても、アラン・ドロンと共演した映画『あの胸にもういちど』（68年）に出演する等、多くのファンを虜にしたとのこと。そんなマリアヌ・フェイスフルはその後、ドラッグに溺れていく中で次第に人々から忘れ去られてしまったが、近時少しずつ復活し、38年ぶりの主演となる本作で奇跡の復活を果たしたとのこと。

もっとも、最近では、『マリー・アントワネット』（06年）のマリア・テレジア役や『パリ、ジュテーム』（06年）における『ガス・ヴァン・サント』篇で私も観ていたらしいが、主役ではないから私は特に意識していなかったもの。このおばさんが、そんなすごい「伝説のミューズ」だったとはちっとも知らなかったナア……。

イギリスの医療制度は……？

この映画は、マギーの息子トム（ケヴィン・ビショップ）がマギーを車で迎え病院に急ぐシーンから始まる。マギーが手に持つ大きなぬいぐるみはトムとサラ（シボン・ヒューレット）の一人息子オーリーへのプレゼントだが、病室はかなり重々しい雰囲気。つまり、オーリーの病気はかなり重いらしい……。

その数日後、医師の話では「6週間以内にオーストラリアで特別な手術を受けなければオーリーの命が危ない」とのこと。そんな残酷な告知を聞いていたのは、トムとサラそしてその場に偶然見舞いにやってきたマギーの3人だが、そこでのサラの質問は「治るのか？」という前に「費用は？」という超現実的なもの。それは、既にマギーもトム夫婦もオーリーの病気のために家まで全部売り払ってしまっているから。

ところで、ここで考えてほしいのは、『シッコ』（07年）で観たイギリスの医療制度。イギリスでは治療費は全額無料なのは……？ そんな疑問をもちながら医師の話を知っていると、たしかに治療費はタダだが、オーストラリアまでの交通費、宿泊代その他はすべて本人負担になるとのこと。なるほど、そりゃ当然……。なぜオーストラリアでなければ手術が受けられないのかについての説明はないが、とにかく約6000ポンドの費用が必要らしい……。

「接客業」の意味は……？

必要なのは大金であるうえ時間が迫っているため、トムとサラはととてもムリだと既

にあきらめムードだが、孫を人一倍愛しているマギーは何とかしなくちゃと必死。しかし、マギーにお金を融通してくれる銀行などあるはずなし。また何のスキルもない中年おばさんには、仕事もなし。

そんなマギーが歓楽街ソーホーの中を歩いている時見つけたのは、「接客係募集・高給」と書いてある1枚の貼り紙。それにつられてマギーは、セックスショップ「セクシー・ワールド」の中に入っていく、オーナーのミキと面接することに……。

ここまではおカネの必要な中年おばさんがよく体験することだが、この映画の面白さはここから始まる。ミキが目をつけたのはマギーの手のひらのやわらかさ。さすが、プロの目は違う……？ もっともミキが弁護士から教わったという「婉曲話法」による「接客業」の意味をマギーが理解するや、マギーが店を飛び出していったのは当然だが……。

食だけではなく、性風俗でも東京は……

11月22日の『ミシュランガイド』東京版の発表により、日本ではミシュラン狂騒曲が鳴り響いており、「東京は美食の都の地位からパリを引きずり降ろした」(AP 通信)と絶賛された。しかし、東京は食だけではなく、性風俗でも「世界に冠たる都市」のよう。なぜなら、「接客係募集・高給」の貼り紙に飛びついたマギーに対してミキが自慢げに説明しているマギーの仕事部屋は、東京のスタイルを真似たもので、ロンドンのソーホー地区でもこんな設備は当店のみとのこと。そういえば、そんな「手コキ」の性風俗店があることを耳にしたことがあったが、なるほどそれはこういうシステム……？

マギーに最初の手ほどきをしたのは、その道の先輩ルーザ(ドルカ・グリルシュ)だが、「青は藍より出でて藍より青し」というように、いつの間にかルーザのブース(?)は閑古鳥が鳴き、マギーのブース(?)は大人気。その人気に輪をかけたのは、マギーに対して「イリーナ・パーム(手のひらイリーナ)」と源氏名をつけたこと。壁一枚隔てた向こう側の男は、「イリーナ」という女性に対してどんな妄想を抱きながらマギーのサービスを受けているのだろうか……？ ちなみに、このイリーナという名前はミキの初体験の女性だったというから、そこにはミキのマギーに対する並々ならぬ期待感が……？

ちなみに、「セクシー・ワールド」では、「イリーナ・パーム(手のひらイリーナ)」

のサービスを受けたい客が文字どおり列をなして並んでいたが、東京なら、そんな状況になればもっと客のプライバシーを大切に思うのだが……。

テニス肘ならぬペニス肘とは……？

野球のピッチャーがシュートの投げすぎで肘を痛めるのは職業病だし、弁護士が書面の書きすぎで腱鞘炎になるのも職業病。しかして、「手コキの女神」が肘を痛めるのはテニス肘ならぬペニス肘とはよく言ったもの。

右手を吊った状態では仕事ができないかと思いきや、「右手がダメなら左手があるサ」とばかり、仕事熱心なマギーは……？

前借り契約は口頭だけ……

マギーの給料は週払い。そして頑張ったら頑張った分だけ給料がアップするシステムだから、今やマギーの週給は600～800ポンドに。しかし、一刻も早くオリーをオーストラリアへ飛ばせたいマギーは一刻も早くまとまった金が欲しかった。そこでマギーはミキに前借りを直談判することに……。

この2人だけの会話はかなりシビアで、ミキは結局前借りをオーケーしたものの、「逃げたら殺す」という物騒な言葉も。契約社会のイギリスでは、ここで一筆取るのかナと思っていたが、さて……？

こんなやりとりをみている限り、ミキとマギーが恋に落ちるなどという可能性は誰も考えないだろうが、さて……？

引き抜きにみるマギーの人間性は……？

どの世界でも一発商売があたるとその真似をする後発組が登場するものだが、それはこの「手コキ」風俗も同じ。すると、超人気のテクニクを持つマギーに対して、商売敵から秘かに引き抜き話がもち込まれても何ら不思議ではない。もちろんマギーはおカネのために仕方なくこの仕事をやっているのだから、早く手術のための費用を準備したいのは当然。すると、ミキに対する前借金を清算したうえ、さらなる高給で雇ってくれる店に移籍しても何ら不思議ではない。プロ野球の世界でも、トレードやFA宣言による移籍は当たり前のだから。

ところが、なぜかマギーはそんな移籍話を拒否。そればかりかそんな申し入れを受

けたことをミキに対して告白。そりゃ、一体ナゼ……？ そこにマギーの人間性がくつきりと……。

友人関係にみるマギーの人間性は……？

マギーには数人の女友達がいた。また、いつも通う雑貨店の店員も顔馴染み。そんな女友達はみんなヒマだから、お茶を飲みながらのうわさ話が最高・最大のお楽しみ。こんな女の楽しみは万国共通……？

ところが、ある日以降マギーがプツツリとそんな行事に参加しなくなったうえ、急に女友達に対してよそよそしくなり、会話を避けている様子。こりゃ一体ナゼ……？ 彼女たちがそう思ったのは当然で、「ねえねえ、最近どうしたの？」と質問攻勢のかまびすしいこと……。さて、それに対するマギーの反応は……？ そして、ズバリと「こんな仕事をしているの」と答えた時の、おばさんたちの反応は……？

こんな友人関係の中にみるマギーの人間性もきわめて興味深いから、よく観察したいもの。

トムとサラの反応は……？

マギーからポンと渡航費用を渡されたトムとサラが驚いたのは当然。そしてマギーがそのお金の出どころを説明できないのも当然。そこでマギーは「ヒ・ミ・ツ」と答え、「絶対説明しない」と宣言したのだが……。

犯罪によるものではないとマギーが宣言しているのだから、それ以上の詮索をしなくてもいいのに、息子のトムは何かと心配性。そこで、あろうことか、ある日マギーの後をつけていくことに。するとマギーが入っていったのは……？ そしてそこでやっていた仕事とは……？

そんなマギーの秘密を知ってしまったトムとサラの示す反応はまさに対照的で面白い(?)が、さてそれは……？ ある程度の想像はつくはずだから、それはあなた自身でよく考えてもらうことにしよう。

自分を省みて……

映画全般を通して感じるのは、マギーのセリフの少なさと、しゃべる言葉の自信に満ちた態度。もちろん最初に「接客業」の内容を知った時の驚きと迷いは当然だが、

決断を下してからの、孫の命を救うためにわが道を行くという堂々とした態度は実際に際立っている。そのため、女友達からの非難に満ちたまなざしに対しても、少しもくじけることなく堂々と反論をしている。また、トムは一時的に大いに反発したものの、その妻サラはここではじめてマギーを理解することに。また、トムも後には理解を示し大団円……。

そんな彼女の自信に満ちた態度は一体何にもとづくもの……？ それは、「自分を省みて……」ということに尽きると私は思う。つまり、こんな性風俗店で手コキ仕事をしていても、彼女は自分を省みて何ら恥じることはないと信じているわけだ。もちろんこれは、今ドキの若い女の子が何ら悪びれず、堂々と援助交際をしているのとは全然意味が異なるもの。この映画からは、そんなマギーの生き方をじっくりと学びたいものだ。

ちなみに、この映画のラストには何とも意外なシーンが待ちうけているから、それにも注目！ そんなシーンが生まれたのも、こんなマギーの生き方のおかげかも……？

2007(平成19)年12月7日記

